



篠原 聡子 研究室
Shinohara Lab.

Profile	Works
1981 日本女子大学家政学部住居学科 卒業	2008 『住まいの境界を読む』(彰国社)
1983 日本女子大学大学院 修士課程修了	2010 「竹内クリニック」(千葉県建築文化賞)
1983-198 香山アリエ	2011 『おひとりハウス』(平凡社)
5 空間研究所 設立	2012 「SHAREyaraicho」(日本建築学会賞)
1986 日本女子大学家政学部住居学科 専任講師	2015 『多縁社会』(東洋経済新報社)
1997- 日本女子大学家政学部住居学科 助教授	2016 「サンカク」(山梨県建築文化賞)
2001-200 日本女子大学家政学部住居学科 教授	2017 『シェアハウス図鑑』(彰国社)
9	2020 『「住む」ための事典』(彰国社)
2010-	2021 『アジアン・commons』(平凡社)

「住む」ことから、建築をデザインする

建築は、人の暮らしにどのように影響を及ぼし、同時に建築は人に住まれることによってどのように変化するか？建築と人の暮らし、建築とコミュニティの関係に着目してフィールドワークを行い、それを現実の建築のデザインにフィードバックすることを目指し活動しています。



首都圏大学連携 鋸南・月影プロジェクト

2005 年より他大学との共同プロジェクトとして発足しました。新潟県うらがわら地区の「宿泊体験交流施設月影の郷」、千葉県鋸南町の「都市交流施設・道の駅 穂田小学校」としてそれぞれの廃小学校を再生しました。
毎年月影では、雪囲いの設置・撤去の他、伝統文化や自然体験のイベント企画を通して、地域の歴史を継承する活動をしています。
鋸南では、今年度は「シェア」をテーマに、活動を行いました。昨年の調査内容をもとに、空家・農地・モビリティの三方向から町の現状を分析し、鋸南町の持つ資産として位置づけを行いました。また、実際に現地へ行き町の人に直接アンケートを行うことで、モビリティに対する意識や、農地の活用状況について住人の方々の意見を伺うことができました。これらから、モビリティを中心に3つの資産をつなぐ活用提案を考えました。これまでの調査内容と合わせ町の可能性を発信し、鋸南町活性化へ向けた具体的提案を行うことを目的に、今後も活動を続けていきます。



清瀬旭ヶ丘団地プロジェクト

日本総合住生活株式会社主催の大学連携リノベーションコンペで、2019 年度最優秀賞受賞作品の実施の伴いスタートしました。
清瀬旭ヶ丘団地は多様な世代にとって利便性が高く、豊かな自然にも恵まれた住環境にありながら、若年層からは選ばれにくいという課題を抱えています。団地内の空き施設を活用し、多様な世代が集まって物と情報をシェアしながらつながる団地コミュニティを提案します。
今年度は、実施へ向けて具体的な空間提案を詰め、空間の運営方法や活動内容などのソフト面に関しても提案しました。また、団地内の活動に参加し居住者との関係性を築きつつ、居住者向けの定期的な報告会を通じてプロジェクトへの理解を双方深める為の活動を行いました。来年度は、竣工予定の空間でワークショップなどを実際に運営・開催し、居住者や近隣住民と意見を交わしながら、人と人をつなぐ空間の完成を目指します。

野村不動産との産学共同研究

野村不動産との共同プロジェクトで、集合住宅のCOMMONスペースにおける居住者のコミュニティに関する調査研究と、プロジェクトへのCOMMONスペースの提案を継続的に行っています。
今年度は、「日常からはじめる非日常の備え」をテーマに研究を進めました。災害時にマンション内の混乱を避けるためには、日常時のコミュニティ形成や備えが重要です。災害を経験した管理会社の担当者へのヒアリングやマンションの見学を通して、日常時から必要なマンションの機能・仕組み・デザインを検討しました。
また、2011 年に良好なコミュニティのための共有空間の仕掛けとして開発した「コミュニティのための100のデザイン手法」を更新しました。より機能的に活用するため、手法の 카테고리 分類の変更や防災に活用できるデザインの抽出を行いました。コロナ禍におけるライフスタイルの変化や地域との関係構築の重要性を考え、新しいデザイン手法の追加も行いました。

主な卒業論文・修士論文

- 卒業制作：高輪築堤 分断された地歴と巡るサードスペース-固定されているモノを開放する空間と時間- 墨屋百香 2021年度
- 卒業論文：日本の都市部と過疎地域におけるコワーキングスペースの特徴-地域性とコロナウイルス流行前後の変化に着目して- 小宮山苑佳/河村惟 2021年度
- 修士制作：3つの境界をたゆたう 旧東京市営店舗向住宅で街と庭と空と暮らす 相曾友里花 2021年度
- 「みかんの島」なりわいと旅のネットワーク-地域活性化に向けたアルベルゴ・ディファーズの提案- 藤谷優里 2021年度
- 多拠点居住のライフスタイル-旧街道沿いの都市を事例として- 金子奈央 2021年度

研究室の雰囲気を表す一言：Reinventing Bangkok Suburban Living

今年度はB3ゼミの一環として、野村不動産とタイのモンクット王工科大学と共同で Reinventing Bangkok Suburban Living が開催されました。
タイの学生とバンコク郊外での新しい暮らしのあり方について考え、住宅の設計を行いました。新しい暮らしを考える上で、現地の学生や先生方からタイの人々の暮らしや建築の様子などを学び、新たな知見を得ることができました。新たな知見を得て、視野が広がったとともに、自分達を取り巻く文化について見つめ直すことができ、学びの多い非常に充実した2ヶ月半となりました。



(B3 石塚)

2021年度の卒業論文・卒業制作

入口	地下	隣接している空間同士	間に壁がある空間同士	廊下を通んだのち壁がある空間同士
△	□	■	■	■
調査番号	図面	パターン化		
No.1				

台湾都市部における住宅の平面構成と食行動の関連-外食・中食文化が間取りに与えた影響- 井上優 黄木彩可 卒業論文

本研究では台北市・新北市における住宅の平面構成とそこに住まう方々の食行動を調査し、台湾独自の外食・中食文化と住空間との関連について研究を行いました。
外食産業が十分に発達した台湾では多くの人が手頃で便利な外食や中食を利用する傾向にあります。そこで、独自の発展を遂げた台湾の食文化と住宅との相互作用を理解するため食行動に関するアンケート調査を行い、平面構成と照らし合わせながら分析を行いました。その結果、台湾都市部の住宅におけるダイニングテーブルの役割の希薄さや、買ってきたものを入り口近くにある空間で食べるといった空間の使われ方が判明し、食行動が台湾の居住空間に与える影響について結論付けられました。



公園としての商店街-生活に溶け込む公園の提案- 亀岡莉子 卒業制作

今日、都市における公園の在り方は多岐にわたる。その中でも公園は、それぞれの地域が抱える様々な課題を解決するための可能性を持つ。本研究では公園というアクセシビリティが高く、滞留できる空間に着目し、公園としての商店街という新しい公園と商店街の在り方を提案し展開する。憩の場であるべき公園と、地域コミュニティ形成の場となってきた商店街を融合することで、地域への愛着や住人同士の交流、場を共有し合う感覚を取り戻すことを意図した。私たちの暮らしに密着した商店街を公園で繋げる操作を行うことで、留まることのできるサードスペースを商店街に創出する。公園の持つ可能性は商店街の再生や地域の魅力の再発掘、住人同士のがりと活気を取り戻すことにも寄与する。



中国東北部における公共浴場とコミュニティの研究-黒龍江省ジャムス市を例として- 楊銘暉 修士論文

公衆浴場建築の歴史の変遷、中国の入浴文化を明らかにし、公衆浴場は室内公共空間の1種として、公共空間におけるアクティビティの多様性の重要性を強調する。ジャムス市の浴場建築を規模により、大中小浴場に分類して分析する。さらに、北京の浴場と日本の銭湯と比較することで、浴場建築の文化的意味、入浴文化と習慣が浴場建築に与える影響を明らかにする。中国住宅地の「社区」というコミュニティ集合体を対象として実地調査とアンケート調査を実施し、浴場建築を分類して解析し、住民の浴場建築への入浴欲求による規模的な選択を明らかにする。中小浴場が東北部の公共生活に必要とされることを証明し、中小浴場が地域コミュニティ活性化に作用することが解明した。



commonsとなる街路

古屋敷璃里

修士制作

街路はかつて、生活の場所であった。そこには生活の一部があふれ出して出現したり、近隣の共有空間となっていた。発展とともに、日常的な共有空間として利用されることよりも機能的になり、移動や流通のために街路に車が侵入し危険を孕む場所へと変化したことで、人々は多くの時間をより安全な空間で過ごすようになった。しかし、歩くことは、街にあふれる多様な人やアクティビティにふれるなど、移動以上の質を獲得している。歩くことを尊重し、失われてしまった街路の質を取り戻すべく、ベトナムや沖縄でまだ存在する、commonsとしての街路を調査した。その知見をふまえてcommonsとなる街路、街の居場所となる場所を提案する。